K-758

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成15年度－

2005

山形市教育委員会

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成15年度－

平成17年3月

山形市教育委員会

序

山形市は、山形盆地の南部に位置し、馬見ヶ崎川や蔵王連峰など水と緑に恵まれた自然豊かな環境にあります。東の奥羽山脈には、平安時代以降、慈覚大師の開基と伝わる国指定名勝・史跡「山寺」が所在し、市内の中心部には戦国武将最上義光の居城であった国指定史跡「山形城跡」が所在するなど、山形県内はもとより、東北の中心的地域として古くから栄えてきました。

市内には、国指定史跡「嶋遺跡」など、埋蔵文化財と呼ばれる地中に埋もれた文化財が300箇所以上確認されております。これらの文化財は、郷土の歴史や文化を理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において住民福祉の向上を目的とした各種社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、国指定史跡「山形城跡」などの保存や整備を目的とした発掘調査も継続されているところです。

本書は、平成15年度に実施された発掘調査の概要をまとめたものです。埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚く御礼申し上げます。

平成17年３月

山形市教育委員会
教育長　大場　　登

例　言

1　本書は平成15年度に山形市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査を総括したものである。

2　表面踏査・試掘調査については、本書をもって報告とし、発掘調査については、今後報告書を作成する予定のあるものについては、略述するにとどめた。また、既に報告書が刊行されているものについては割愛した。

3　本書の作成・執筆は、武田和宏・五十嵐貴久・須藤英之・國井修が担当した。編集は國井修が担当した。

4　出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会が一括保管している。

凡　例

1　本書で使用した地形図等は以下の通りである。

第1図　国土地理院発行1：50,000地形図「山形」NJ－54－21－11（仙台11号）を1：100,000に縮小

第3図　山形市発行1：10,000「山形広域都市計画図　5」を1：12,500に縮小

第4図　山形市発行1：2,500国土基本図　X－QC　67－2（山形広域都市計画図「漆坊」）を1：5,000に縮小

第5図　山形市発行1：10,000「山形広域都市計画図　7」

第6図　山形市発行1：2,500都市計画図「山形市（山寺地区）」を1：3,000に縮小

第7図　国土地理院発行1：25,000地形図「笹谷峠」NJ－54－21－11－2（仙台11号－2）

第8図　国土地理院発行1：25,000地形図「山寺」NJ－54－21－11－1（仙台11号－1）

2　遺構番号は現地調査段階での番号を踏襲している。

3　遺跡概要図・遺構配置図中の方位は原則として座標北を示しているが、一部任意のものがる。

目　次

第Ⅰ章　埋蔵文化財保護の動向
1　平成15年度の調査概況 …… (國井修) …… 1
第Ⅱ章　調査の概要
1　史跡　山形城跡 …… (五十嵐貴久) …… 5
2　双葉町遺跡・山形城三の丸跡 …… (國井修) …… 9
3　試掘調査・立会調査 …… (武田和宏・須藤英之・國井修) …… 11
(1) 長谷堂城
(2) 成沢城
(3) 史跡・名勝　山寺
(4) 尺の上
(5) 所　部

表

表1　平成15年度埋蔵文化財調査一覧 …… 2
表2　埋蔵文化財発掘調査報告書一覧 …… 4
表3　新規登録・変更遺跡一覧 …… 4

挿　図

第1図　調査地点位置図 …… 3
第2図　史跡山形城跡発掘調査位置図・
遺構立面図・出土遺物実測図 … 7・8
第3図　双葉町遺跡・山形城三の丸跡
調査概要図 …… 10
第4図　長谷堂城跡調査概要図 …… 11
第5図　成沢城跡調査概要図 …… 12
第6図　史跡・名勝山寺調査概要図 …… 14
第7図　尺の上遺跡位置図 …… 14
第8図　所部遺跡位置図 …… 14

第Ⅰ章　埋蔵文化財保護の動向

1　平成15年度の調査概況

平成15年度は、４件の発掘調査、７件の試掘調査、３件の立会調査を実施している。平成15年度の調査状況は表１の通りである。また、これまで刊行した報告書の一覧は表２の通りである。

発掘調査では、宅地造成工事、土地区画整理、道路改良工事に伴う緊急発掘調査と国指定史跡「山形城」の整備事業に伴う発掘調査を行っている。

宅地造成に伴う緊急発掘調査では、平成14年度から継続して南志田遺跡の調査を実施した。８世紀中葉から９世紀後半にかけての竪穴住居が20棟以上確認され、多量の土器の他、袋状鉄斧、鉄製紡錘車、鉄鏃などの鉄製品が出土している。平成16年度中に報告書を刊行する予定である。

山形駅西土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査では、双葉町遺跡の発掘調査を実施した。土地区画整理事業に伴う道路拡幅部分の調査で、これまで同様、古墳時代、平安時代の集落跡と中世から近世の城下町が確認された。また、昨年度に平成12年度まで調査を行った成果の一部を報告書として刊行している。

道路改良工事に伴う緊急発掘調査では、山形西高敷地内遺跡の発掘調査を実施した。調査では縄文時代中期末葉（大木10式期）の遺構・遺物が確認されている。調査成果については、報告書として刊行している。なお、調査については、民間調査機関に委託した。

その他、国指定史跡「山形城跡」の復原整備に係わる調査を継続して実施している。

試掘調査では、道路拡幅工事、山形駅西土地区画整理事業、無線基地局整備工事、宅地造成、病院建設等に伴う地調査を実施した。道路拡幅工事に伴う山形西高敷地内遺跡以外では、遺構・遺物は確認されなかった。

立会調査では、公園整備事業に伴い、長谷堂城、成沢城の調査を、各種管理設に伴い、山寺付近の調査を実施した。

なお、資料調査で、所部遺跡を新たに登録している。所部遺跡は、山形市内でも希少な旧石器時代の遺跡として、研究者に認知されていたが、正式な登録が行われていなかったことから、登録を行った。

整理作業では、嶋土地区画整理事業、吉原土地区画整理事業、成沢土地区画整理事業及び芸工大前土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査の成果を報告書として刊行した。

表１　平成15年度埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	調査地番等	事業名	調査区分	県遺跡番号（中世城館遺跡番号）	調査期間	調査面積（㎡）	担当者	備考
1	山形城	霞城町３他	史跡山形城跡本丸大手門復元整備事業	発掘調査	1 (201－001)			五十嵐貴久 高橋　拓	国指定史跡
2	双葉町	双葉町	山形駅西土地区画整理事業	発掘調査	平成９年度新規	2003/ 8/27～12/3	3000	圃井　修 宮嶋　啓	一部調査を次年度に繰り越し。
3	南志田	大字漆山字南志田・大股	宅地造成	発掘調査	平成14年度新規	2003/ 2/27～5/2	2300	圃井　修 須藤　英之 櫓松　薫 高橋　拓	前年度からの継続。
4	山形西高敷地内	若葉町12－21	都市計画道路桑畑天童線道路改良工事	試掘調査	29	2003/5/16 2003/7/23 2003/8/12		武田　和宏	
				発掘調査		2003/ 9/19～11/30	800		山武考古学研究所調査委託
5	山形城三の丸	城南町・双葉町	山形駅西土地区画整理事業	試掘調査	(201－002)	2003/6/12		圃井　修	埋蔵文化財は所在しない。
6	長谷堂城	大字長谷堂字城山	公園造成	立会調査	104 (201－011)	2003/7/25 2003/10/10 2003/12/15		須藤　英之 武田　和宏	
7	成沢城	蔵王成沢字館山	公園造成	立会調査	63 (201－014)	2003/ 11/12～13 2003/11/20		須藤　英之	
8	山寺	大字山寺	下水管埋設工事・建物増築	立会調査		2003/9/2		武田　和宏	国指定名勝史跡
			管埋設・トイレ増築	立会調査		2003/9/16			
9	尺の上	大字滑川字山岸	無線基地局設備工事	試掘調査	41	2003/10/28		武田　和宏	埋蔵文化財は所在しない。
10	所部	大字山寺字所部		資料調査	平成15年度新規				出土遺物のみ紹介されていたものを正規に登録。
11		大字長谷堂字西向176－１	宅地造成	試掘調査		2003/4/8		五十嵐貴久	長谷堂城（県遺跡番号104）に隣接。埋蔵文化財は所在しない。
12		清住町二丁目89－６	病院建設	試掘調査		2003/4/11 2003/4/14		武田　和宏 五十嵐貴久	埋蔵文化財は所在しない。
13		大字神尾字小山	バラ園管理棟新築工事	試掘調査		2003/8/4		武田　和宏 宮嶋　啓	埋蔵文化財は所在しない。
14		大字船町字ノ張 大字中野字的場	宅地造成	試掘調査		2004/ 3/15～17		須藤　英之 圃井　修 宮嶋　啓	埋蔵文化財は所在しない。

1:山形城
2:旅篭町遺跡
3:南志田遺跡
4:山形西高敷地内遺跡
5:山形城三の丸跡
6:長谷堂城
7:成沢城
8:山寺
9:尺の上遺跡
11:宅地造成工事
12:病院建設工事
13:バラ園管理棟新築工事
14:宅地造成工事
10
9
13
0
2
4km
1:100,000

第１図　調査地点位置図

表２　埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

集番号	報告書名	発行年月日	発行機関	備考
1	熊ノ前遺跡第１次発掘調査報告書	1975/5	山形市教育委員会	
2	熊ノ前遺跡第３次発掘調査報告書	1978/11	山形市教育委員会	
3	山形城跡発掘調査報告書	1981/3	山形市教育委員会	本丸及び二の丸部分
4	菅沢二号墳発掘調査報告書	1987	山形市教育委員会	
5	菅沢２号墳	1991	山形市教育委員会	
6	嶋遺跡発掘調査概報	1994	山形市教育委員会	範囲確認調査の報告
7	馬上台遺跡発掘調査報告書	1995/3	山形市教育委員会	
8	山形城本丸発掘調査概報	1996/3	山形市教育委員会	平成６・７年度調査概報
9	中野目Ⅰ遺跡中野目Ⅱ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	特殊法人日本勤労者住宅協会 山形県労働者住宅生活協同組合 山形市教育委員会	
10	吉原Ⅰ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社カワチ薬品 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
11	吉原Ⅱ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社東北ケーズ電気 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
12	一ノ坪遺跡発掘調査報告書	2001/11/30	山形市教育委員会 山武考古学研究所	
13	吉原Ⅶ遺跡発掘調査報告書	2002/3/31	東北ミサワホーム株式会社 松田建設株式会社 山形市教育委員会	
14	石田遺跡上谷柏遺跡発掘調査報告書	2002/6/30	東北電力株式会社 東北用地株式会社 山形市教育委員会	
15	山形城三の丸跡（山形市立第一小学校敷地内）発掘調査報告書	2003/3/31	山形市教育委員会	
16	吉原Ⅱ遺跡第３次発掘調査報告書	2003/3/31	株式会社ニラク 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
17	双葉町遺跡（山形城三の丸跡）発掘調査報告書	2004/3/31	山形市教育委員会	
18	山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	山形市教育委員会 山武考古学研究所	
19	吉原遺跡群発掘調査報告書	2004/3/31	吉原土地区画整理組合 山形市教育委員会	吉原土地区画整理事業に伴う調査報告書
20	観音堂遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	芸工大前土地区画整理組合 山形市教育委員会	
21	成沢西遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	成沢土地区画整理組合 山形市教育委員会	
22	河原田遺跡・梅野木前２遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	嶋土地区画整理組合 山形市教育委員会	

表３　新規登録・変更遺跡一覧

遺跡名	地番等	遺跡番号	変更内容	1:25,000地形図	地形図番号	備考
所部（ところぶ）	大字山寺字所部	平成15年度新規	新規発見	山寺	NJ－54－21－11－1	

第Ⅱ章　調査の概要

1　史跡　山形城跡

(1) 調査要項

遺跡番号　県遺跡番号１（中世城館遺跡番号201－001）　**遺跡略号**　KJO

所在地　山形市霞城町３番他（霞城公園）　**調査原因**　史跡山形城跡本丸大手門復原整備事業

調査面積　1,900㎡　**調査期間**　2003／５／19～７／31、８／４～10／31、11／10～28

調査担当者　五十嵐貴久（調査補助員　高橋拓）

(2) 調査の経緯

山形城跡は、昭和61（1986）年に国史跡指定を受け、平成３（1991）年には「二の丸東大手門」の復原が完了した。その後、整備事業計画に基づき本丸の整備の基礎資料を得るため調査が進められてきた（武田1996『山形城跡本丸堀発掘調査概報』山形市教育委員会）。平成８年からは本丸大手門の復原整備を目的とした調査が行われ、その結果をもとに大手門石垣の修復工事が平成10年度より進められている。発掘調査も石垣修復工事に関連継続しており、平成15年度は本丸土塁復原範囲における遺構確認調査、本丸大手橋及び二ノ丸側橋台石垣周辺の遺構確認調査を実施した。

(3) 遺跡の立地と環境

山形城跡は蔵王山系を源とする馬見ヶ崎川扇状地の扇端部湧水帯にあり、市街地のほぼ中央に位置する。城跡は馬見ヶ崎川の氾濫による砂礫層を基盤とした平地に立地しており、現在までの発掘調査により縄文時代以来の遺構・遺物が検出されている例からも人々の拠点的生活域であった。調査地点は近現代の攪乱により旧地表等は確認できないが、氾濫等による河川砂と腐食質土層との互層状の堆積層が上位に存在し、下層は砂礫層が厚さ約４ｍ堆積する状態で、本丸堀の法面（側面）を支持するのもこの砂礫層である。現在、山形城跡は文化・体育施設等が配備された都市公園機能を有すると共に、市街地における広大な緑地として市民の憩いの場として利用され、かつ現在史跡整備として近世山形城の姿が復原されつつある。

(4) 遺跡の歴史的経緯

山形城跡は南北朝期の延文２（1356）年、足利一門の斯波氏により築かれたと伝わる。初代城主は斯波兼頼で、後に最上氏を名乗り第11代最上義光の文禄・慶長期（1592－1614年）に現在最上時代山形城下絵図として残る城下町に発展した。最上氏最大57万石の居城として三ノ丸までの輪郭式の広大な城であったが、元和８（1622）年鳥居氏が入部の際に本丸・二ノ丸内を改修したと伝えられ、現在の二ノ丸の形に整えられた。本丸堀は明治時代に旧陸軍の兵営地が設置される際埋め立てられ、その後遺構は全く不明であったが、発掘調査により徐々にその姿が明らかになってきている。

(5) 検出された遺構と遺物

範囲は「本丸東土塁地区」・「本丸大手橋地区」・「本丸南土塁地区」と呼ぶ。以下詳述する。

本丸東土塁地区：本丸東土塁中段に出土した「石積遺構」の延長部分約200㎡の発掘調査を実施し、40

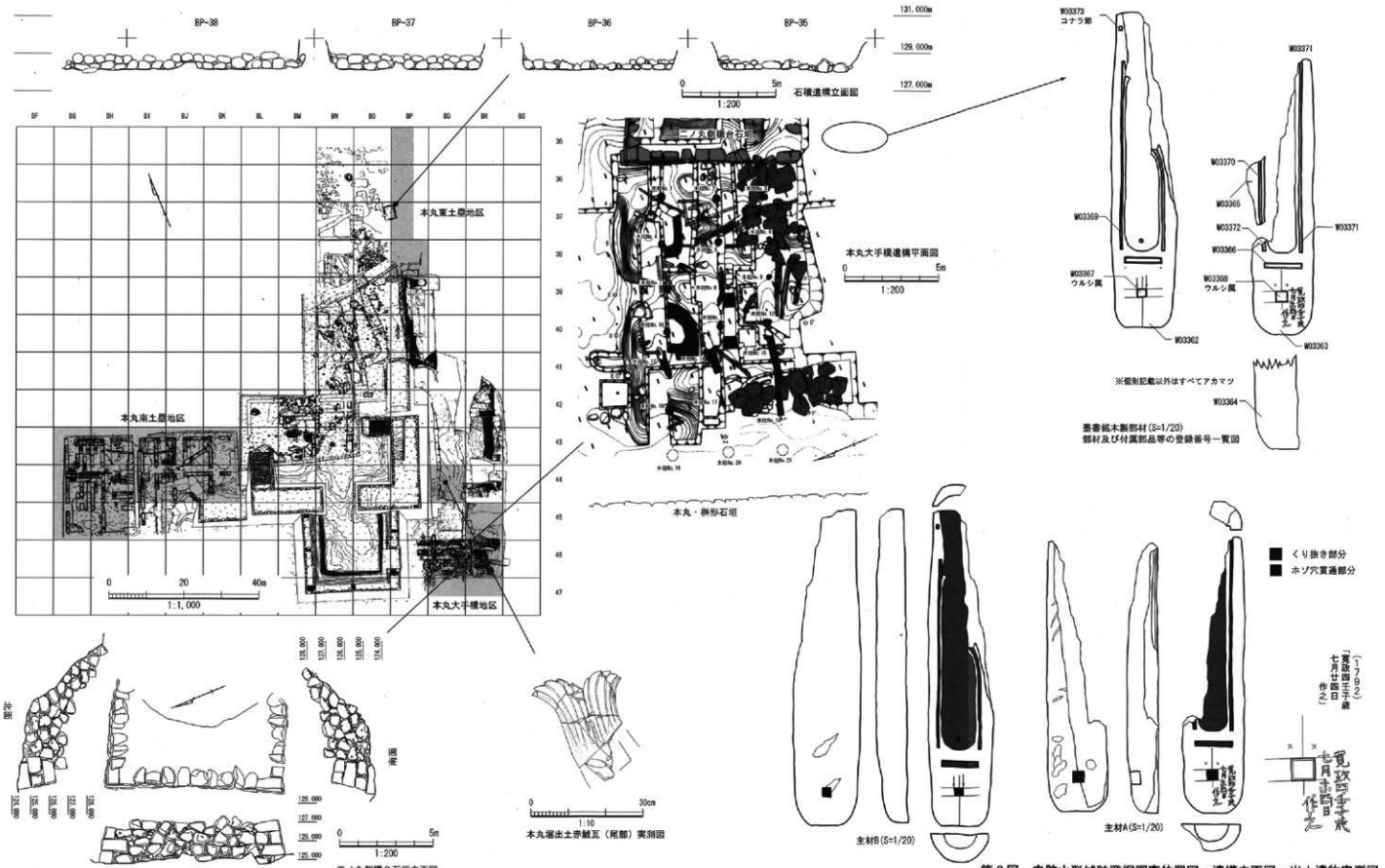
m分の立面を検出し、更に20m先の工事区域境界付近でも試掘を実施し同遺構の延伸を確認した。石積は原則川原石である玉石を２ないし３段に積み上げていたが、部分的に角礫等を素材としている。石材は主に安山岩系石材である。積み方は、石材の長軸方向を横長に配置した「控え」を重視しない積み方で、角礫を使用している部分では「立て石」状態の例もある。裏込めは少なく栗石は顕著ではない。石積の前面及び上面には上部より砂礫層の流入が認められ、本層は土塁形成層で石積遺構は土塁中土砂に埋没していた可能性が高いことが窺われた。しかし、共伴遺物に乏しく構築年代を推定には至らなかった。また、石材の差異についても構築時期差とは認識せず、採取石材に起因するものと考えた。

本丸大手橋地区：二ノ丸側橋台石垣と大手橋跡及び本丸東堀跡の一部を約500㎡発掘調査した。橋台石垣は高さ最大約４m・幅約10mの規模で現存し、出隅算木積みの打ち込みハギ技法・乱積みの石垣である。石材は本丸側同様安山岩系石材を主素材とし、他に花崗岩系石材を含む。石垣内面は裏込めが充填され、厚みは約１mある。その内部は地山砂礫層があり、その前面は本丸堀跡の二ノ丸法面よりも堀内に張り出す。旧本丸堀の痕跡の可能性がある。大手橋跡は、21（３×７）本ある柱列のうち最も南側のトレンチ調査を行った。木柱はすべてスギを素材とし、その周囲からはキセル・ノミなどの金属製品及び寛永通宝が数枚～数十枚重なり出土した。また、堀内からは木製部材が大量に出土した。最長５m超の板材など72点出土した。大手橋の材料だった可能性が高く、スギ・クリ・ケヤキなどを素材とするほかウルシ属の原木も出土した。樹皮が残りいわゆる漆掻き痕跡を遺す。そのほか、「墨書銘木製部材」が１点出土した。アカマツを素材とし、一端は肩部を削り湾曲させ他方はソケット状に刳り抜く精緻な加工を施す長軸約1.8mの部材である。半裁状態の内面に「寛政４（1792）壬子歳七月廿四日作之」の墨書が遺る。一方東側橋台直下の堀内からは瓦類が大量に出土した。赤鯱瓦・堀田家家紋赤鬼瓦などは一文字櫓の姿を具体的に示す良好な資料である。

本丸南土塁地区：西側櫓台石垣の西部に位置する土塁推定範囲のうち約1,200㎡発掘調査した。検出した遺構は、墓壙１基・溝跡３基・土手状遺構２基・石積遺構３基である。墓壙は幼児屈葬墓で、長軸約40cm。人骨が遺るが副葬品はなし。溝跡は２基重複確認され、溝の両脇に石を配置したもの。共伴遺物はなく、南北方向に延伸する。また、調査地点中央には東西方向に伸びる溝跡とそれに付随する土手状遺構が発見された。溝は浅めのU字を呈し、その南北に堅く締まった土手が遺る。北側の土手には南北両面にこぶし大の川原石の石積遺構が確認され、その北側は深く落ち込む様相を呈していた。確認面での北側土手状遺構の短軸は約１mあるが、本来はもっと高く土盛りがあった可能性がある。いずれも共伴遺物はないが、本丸土塁範囲地下に相当するため所属時期は中世である。なお、試掘調査で本丸南土塁中段においても、東土塁に類する石積遺構の一部を確認した。今後延伸状態を調査したい。また、本地区では、整地層中より金箔瓦が出土した。点数は破片で数点だが、本丸城で初の出土例である。

(6) まとめ

今回の調査は示唆に富む出土遺物が得られた。また、土塁中段の石積遺構が東・南両面に存在する事実を受け、土塁に付随する遺構でありかつ初期段階の遺構の可能性が窺えた。また、中世の区画性遺構が明らかになったが、城郭（館）との関連性について慎重に検討する必要がある。



第２図　史跡山形城跡発掘調査位置図・遺構立面図・出土遺物実測図

2　双葉町遺跡・山形城三の丸跡

双葉町遺跡は、山形駅西口、馬見ヶ崎川の形成した扇状地の扇端部に立地し、標高約125mを測る。また、城南町一丁目遺跡に隣接し、山形城三の丸跡の範囲内に所在する。周辺区域は、山形駅西土地区画整理事業に伴う各種開発が進められており、事業の進捗に併せて、城南町一丁目遺跡も含め、平成９年度より、山形県教育委員会、財団法人山形県埋蔵文化財センター及び山形市教育委員会により、断続的に調査が実施されている。山形城三の丸跡は、現在の山形市中心市街地をほぼ囲繞し、南北約1.6km、東西約1.5kmの規模を有する。三の丸土塁及び堀跡は現存している部分もあり、その一部は国指定史跡となっている。また、平成13年度には、山形駅西土地区画整理事業に伴う調査で、平成14年度には山形市立第一小学校校舎改築工事に伴う調査で堀跡の一部を調査している。

今回の調査は、山形駅西土地区画整理事業に伴う道路拡幅部分について試掘調査及び緊急発掘調査を実施した。

(1)　山形城三の丸跡

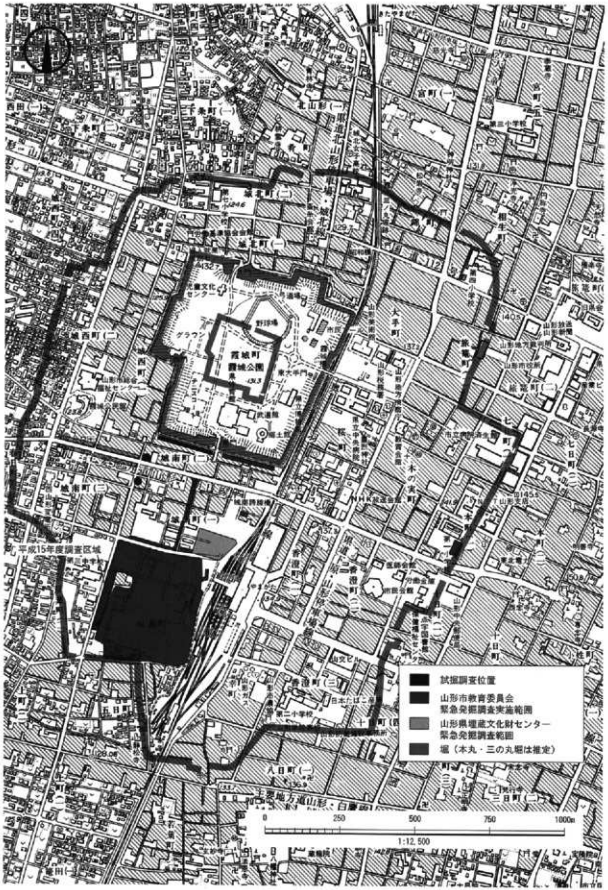
調査では、事業予定地に任意に設定した試掘坑を重機で掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。その結果、表土以下が撹乱層となり、砂礫層に達した。よって埋蔵文化財は所在しないことが確認された。

(2)　双葉町遺跡

山形市立第三中学校東側の市道南追手前南館線拡幅工事に伴う調査を実施した。調査予定区域が、既存道路に隣接しており、かなりの撹乱が予想されたため、事前に試掘調査を実施し、調査区域を決定し、緊急発掘調査を実施した。調査期間は、平成15年８月27日から12月３日までで、調査面積は約3,000㎡である。調査区内は、既存建築物の基礎等によりかなりの撹乱を受けていたが、これまでと同様に、古墳時代後期、９世紀初頭から中葉の竪穴住居跡、中世から近世の城下町に関連する溝跡や井戸跡が検出された。古代の竪穴住居跡については、本遺跡でこれまで検出された住居跡と規模、形態ともに近似しており、遺物の出土傾向も同様である。中世以降の所産と判断される柱穴が多数確認されているが、建物跡を構成することは出来なかった。井戸跡については、素掘りの井戸が大勢を占め、石組み井戸はほとんどなく、石組みも井戸跡底部にのみ構築されるものがほとんどである。また、各井戸跡は、重複した状態もしくは近接した位置で検出されており、幾度も作り変えが行われたことが推定される。溝跡は概ね東西方向に走行しており、旧東ソー敷地内で検出された溝跡につながるか、伴う可能性が高い。また、調査区南端の溝跡からは、金箔付の瓦が１点出土している。

なお、今回の調査区の北東端に隣接した部分については、平成16年度に調査を実施している。

また、上記土地区画整理事業に係る旧株式会社東ソー敷地内の調査成果については、中世以降のものについて、平成15年度中に報告書を刊行している。平安期以前の調査成果及び周辺地域の調査成果については、順次報告書を刊行していく予定である。



第３図　双葉町遺跡　山形城三の丸跡調査概要図

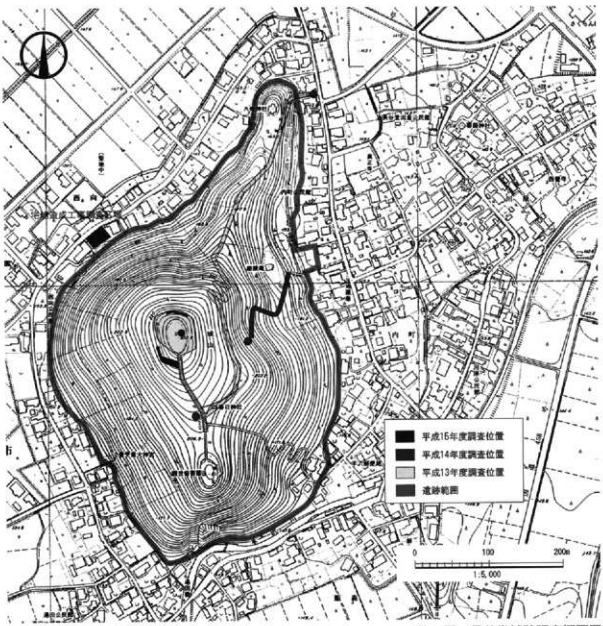
3　試掘調査・立会調査

(1)　長谷堂城

山形市の南西部に位置する標高約200mの独立丘に築城されており、最上義光と直江兼続率いる上杉軍が戦った慶長五（1600）年の出羽合戦の舞台となった城館として著名である。往時は、丘の周囲を土塁及び水濠が囲んでいたと伝えられている。城郭の平面規模は、南北450m、東西350mに及ぶ。

長谷堂城について、現在、山形市都市開発部公園緑地課が主体となり、公園整備事業が進められている。この整備に伴う園路整備、四阿設置、転落防止柵設置について、工事の進捗に併せて立会調査を実施した。

各工事箇所において掘削時に立会を行ったが、いずれの箇所からも遺構・遺物は確認されなかった。工事による掘削も軽微なもので、埋蔵文化財に対する影響は殆どないものと判断された。



第４図　長谷堂城跡調査概要図

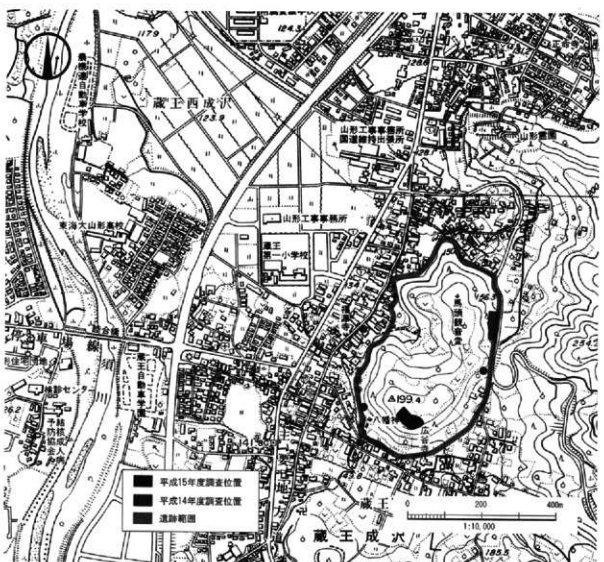
⑵ 成沢城

成沢城は、山形市の南東部に位置し、標高約200mの奥羽山脈裾野に立地している。城の西側を鳴沢川が流れ、現在も部分的に土塁や虎口が残存している。城郭の平面規模は、南北580m、東西350mに及ぶ。

成沢城について、現在、山形市都市開発部公園緑地課が主体となり、市民のレクリエーションの場として活用を図ることを目的とした公園整備事業が進められている。

この整備に伴う転落防止柵設置・ベンチ設置について工事の進捗に併せて立会調査を実施した。

各工事箇所において掘削時に立会を行ったが、いずれの箇所からも遺構・遺物は確認されなかった。また、工事による掘削も軽微なもので、埋蔵文化財に対する影響は殆どないものと判断された。



第５図　成沢城跡調査概要図

(3) 名勝史跡「山寺」

山寺は、貞観二（860）年に慈覚大師が開基したと云われる東北有数の古刹であり、名勝史跡に指定されている。

平成15年度は、名勝史跡「山寺」に所在する金乗院の下水管埋設工事及び建物の一部増築工事と、同じく中性院の管埋設工事及びトイレの一部増築工事に係る、合わせて２件４ヶ所の立会調査を実施した。その結果は以下のとおりである。

①金乗院南面の下水管埋設箇所では、地表下約50cmまでは現代の遺物が混入しており、その直下は人頭大の凝灰岩礫が多量に埋められていた。金乗院が乗る平場を形成する整地層と判断された。遺構・遺物は検出されなかった。

②金乗院東側の下水管埋設箇所及び建物の一部増築箇所についても、現地表下約50cmで人頭から拳大の凝灰岩礫が多くなり、やはり整地層と考えられる。遺構・遺物等は検出されなかった。

③中性院西面の埋設管工事箇所では、現地表下約80cmまで掘削したが、拳大の凝灰岩礫を多く含む整地層がつづき、遺構・遺物等の出土はなかった。

④中性院西から北側の増築箇所では、現地表から約30cmの掘削にとどまり、遺構・遺物等は検出されなかった。

(4) 尺の上遺跡

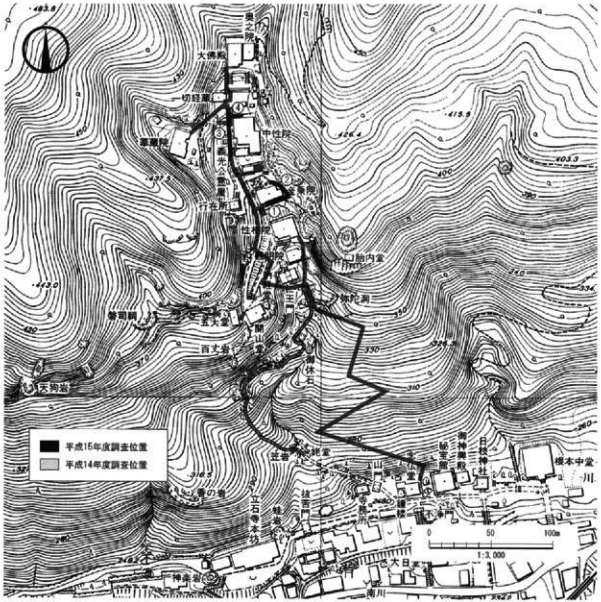
株式会社NTTドコモ東北により山形蔵王無線基地局設備工事が計画されたことを受けて、試掘調査を実施した。

調査は事業地内に４ヶ所の調査区（TP１～４）を設定し、手掘りにより掘り下げを行ったが、いずれの調査区からも遺構・遺物は検出されなかった。

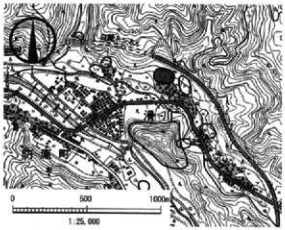
以上のことから、当該箇所に遺跡は所在しないと判断される。

(5) 所部遺跡

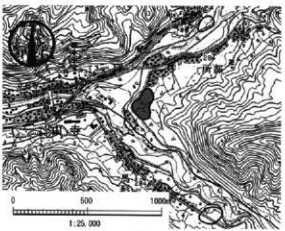
山形市の北東部、大字山寺字所部に所在する。奥羽山脈から西流する立谷川と紅葉川の合流地点東側の台地上に立地し、標高約270mを測る。本遺跡は、市内でも珍しい旧石器時代の遺跡として一部の研究者が知るところであったが、遺跡の登録がなされていなかった。出土遺物は地元住民の採集品で、これまで、『山形考古』において紹介されている。平成15年度に刊行した『図説山形市の歴史と文化』の写真掲載のため取材したのを機に、新規遺跡として登録を行った。



第６図　史跡・名勝山寺調査概要図



第７図　尺の上遺跡位置図



第８図　所部遺跡位置図

山形市埋蔵文化財調査年報
平 成 15 年 度
2005年３月31日発行

発行　山 形 市 教 育 委 員 会
〒990-8540　山形市旅篭町二丁目３番25号
TEL023－641－1212

印刷　コロニー印刷（山形福祉工場）
〒990-2322　山 形 市 桜 田 南 １ － 19
TEL023－641－1136